

関ヶ谷市民の森愛護会

(平成 19 年度第5回役員会の報告等)

平成20年1月7日

新年は子(ね)の年です！

明けましておめでとう御座いまちゅ！

新年の「干支(えと)」は、「戊子(つちのえね)」の「子(ね)年」です。なにか良い年周りの予感がするのは筆者が子年であるひいき目でしょうか？ ほかにも子年の会費は大勢いらっしゃるのではないかと思いますか…。

ご承知のように、干支は「+干(じっかん)」と「+二支(じゅうにし)」の組み合わせで作られています。+干の「干」と+二支の「支」を合わせて、「干支(えと)」と呼ばれる所以です。

「+干」とは、「甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸」の+種です。古代中国の殷では、太陽は+個あるものと信じられていて、これらが日替わりで昇り、+日で一巡すると考えられていました。+干はこれら+個の太陽に付けられた名前というが符号のようなものだと言われています。

また、当時、太陽が+日で一巡することを「旬」と呼んだそうですが、今使われている月の上旬、中旬、下旬という呼び名もこれに由来するのだそうです。

次に、「+二支」とは、皆さんも良くご存知の、「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、羊、申、酉、戌、亥」の「+二支獣」のことです。

で、干支はこの「十干」と「十二支」の組合せですから、10と12の最小公倍数で60通りの組合せが生じます。それが60年で一巡することを「還暦」と呼ぶことは、皆さんもご承知で、既に還暦をご経験の方も多いのではないのでしょうか？

「干支」で面白いのは、「十二支獣」の筆頭がなぜ「鼠」なのかについて、次のような説話が中国やわが国に伝わっていることでしょう。

神が十二支獣を決めるにあたって、家の門の前に来た順番で決める
とのお触れをお出しになりました。

牛は動きが遅いからと真っ先に出かけ一番に門の前に着きました。
ところが、門が開かれた途端、牛の頭に乘っていた鼠が牛の前に飛び出
たので、鼠が一番になりました。

猫も十二支に入れてもらおうと準備をしていましたが、鼠が集合の日
をわざと間違えて教えたので十二支に入ることが出来ませんでした。
それで、猫は今でも鼠を追い回すのだそうです。

この話には、「鼠」のマイナス・イメージを強調し過ぎるくらいがあって、私ども子(ね)
年のものは些かつらい想いをさせられます。

しかし、「十二支」の本来の意味は、古代中国に端を発する「農業暦」に由来するも
のなのです。つまり、一年間の移り変わる季節の特徴を月毎に文字で表現するため、
十二ヶ月の各月に、それら月々の季節の特性にふさわしい文字を充て、それを覚え易
くするよう、それらの文字に因んだ生物を配したものが「十二支獣」なのです。

このように、古代中国では、「日の最も短い冬至を含む月」を筆頭月とし、この月に
「子(し)」という文字を充て、「鼠」を配したのです。なぜなら、「冬至」から日が次第に
長くなる様があたかも子が育つのに似ているところから、この「冬至の月」を「子(し)」と
名付け、これに成長が早く繁殖力の旺盛な「鼠」を充てたのです。そして、6世紀、十
二支がわが国に伝えられてからは、わが国ではこの「子(し)」という文字を「ねずみ」の
「ね」と呼ばせるようにしたのです。ですから、子(ね)の字が本来的に意味するものは、
「育つ＝成長する」と言う前向きで豊かな未来を象徴する状況を指しているのです。

本年は、五年目を向えるわが愛護会にとって、本格的な「成長期」の年です。楽しい
企画を増やし益々愉快にやって参りたいと思っています。皆様方からも面白いアイデ
アがあれば是非ご提案願いたいと思います。

以下は、平成20年1月5日開催の「定例役員会」における審議事項等です。

[I] 今後の活動予定

- 1月19日(土) 公式活動日(炭焼窯開き、竹垣の修理、階段の段差修理等)
2月 3日(日) 公式活動日(生垣・竹垣の修理、 階段の段差修理等)
16日(土) 公式活動日(腐葉土囲いの移設と腐葉土の蒐集等)
3月 2日(日) 公式活動日(炭焼き等)
15日(土) 公式活動日(炭焼窯開き等)

(注) 公式活動日は、原則、各月の「第一日曜日」と「第三土曜日」とします。

[II] 今後のパトロール予定

1月13日(日)	小倉 征子	齋藤 和子
20日(日)	佐野 庄次	古賀 卓郎
27日(日)	門田 教与	立川 成江
2月 3日(日)	篠原 英男	上原 隆一
10日(日)	惣谷 実	永田 一彦
17日(日)	徳岡 正彦	梶田 良春
24日(日)	真鍋とめ子	雨宮 誉子
3月 2日(日)	外山 カオル	塩山 裕子
9日(日)	吉田 文雄	山口精一郎
16日(日)	川島 敏裕	松原 勉
23日(日)	松本 哲朗	梁瀬 勉
30日(日)	宮本 英利	宮本 久美

(注) パトロールは、「巡回チェックリスト」に従って実施し、結果の「チェックリスト」は徳岡総務担当役員宛、電子メール()又はFAX()にてご報告下さい。
なお、二人の巡回者の都合が合致しない場合は、予定日近辺で両者都合の良い日をお打合せの上実施して下さい。

[Ⅲ] クラブ活動の実施状況等

当会には、現在、①「ほたる復活クラブ」（リーダーは吉田会員）、②「木工クラブ」（リーダーは戸次（鎮）会員）、③「園芸クラブ」（リーダーは日高会員）の三つのクラブがあります。会員はどのクラブにもいくつのクラブでも自由に入会できます。ご希望は、いつでもクラブリーダーか役員にお申し出下さい。また、入会しておられなくても、どのクラブへもいつでも自由にご参加戴けます。因みに、「炭焼き事業」は、愛護会全体の事業として行っています。

（イ）ほたる復活クラブ

今期のホタル幼虫飼育は、戸次、橋本、松本会員他3名の方々に合計約750頭の「ヘイケボタル」の幼虫を飼育いただいています。来期（本年9月以降）は、「ゲンジボタル」ともう少し大量の「ヘイケボタル」の幼虫の飼育が必要になるかと思っています。お孫さん達への勉強に飼育を希望される会員は、ホタル・リーダーまたは役員まで、早めにお申し出下さい。飼育用の容器・器具の類は、愛護会から貸与致します。

（ロ）木工クラブ

昨年12月23日には、恒例の「門松作り」を賑やかに実施しました。お造りになった「門松」は、1月12日午前10時から、関ヶ谷の「草舞台公園」で行われる「ドンド焼き」で焼却可能です。希望者は、焼却予定の「門松」を、同日午前8時10分までに、「市民の森」の「山の手入口」付近にご持参下さい。

（ハ）園芸クラブ

昨年11月17日の活動日に、パンジーの花壇への植え込みを完了しました。今後は、花柄摘み等冬季中の花壇の維持にクラブ員のご協力をお願い致します。

（ニ）炭焼き事業

新年早々の1月6日早朝、今年初の炭焼きを実施しました。今回は、火入れがスムーズで順調な焼き上がりが期待されます。次回炭焼きは、3月2日（日）の公式活動日の午前7時からです。お手伝い戴いた会員には、竹酢液と竹炭を差上げます。

[Ⅳ] 次回定例役員会

次回定例役員会は、3月1日（土）午後7時から、「山の手自治会館」にて開催します。

関ヶ谷市民の森愛護会会長 鈴木 勲（文責：宮本英利）